

インターネットトラブル事例集 (2018年度版)



総務省 総合通信基盤局 消費者行政第一課 青少年担当

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html



はじめに

インターネットやアプリは、安全に正しく使うことができればとても役立つ便利なものです。しかし残念ながら、誹謗中傷やいじめの温床になったり、事件や犯罪に巻き込まれるきっかけになったりしていることも事実で、子供たちが被害者だけではなく、加害者になるケースさえ生じています。

これからの時代を生きる子供たちにとって、情報活用能力は不可欠、避けて通ることはできません。ですから、インターネットや、スマートフォンを始めとするデジタル機器、SNSなどのコミュニケーションツールを「賢く安全に使うための知識・知恵」や「ルールを守って使える心」を育むことが大切です。本事例集が、教育や子育ての現場で、子供たちの情報活用能力を育てる一助となれば幸いです。

学校の授業などでご活用いただくために

学習、指導、話し合い等に活用したいというご要望にお応えして、総合学習の時間や情報の授業はもちろん、アクティブラーニングの教材としてもお使いいただける構成（1ページ1事例）に。上段が事例の内容、中段が学びの進め方、下段が解説とアドバイスとなっています。

事例ごとに印刷してワークのための題材としたり、PDFファイルを部分拡大してスクリーン等に投影するなど、いろいろ工夫しながら積極的にご活用ください。

実際に起きたトラブルです。まず初めに、ここをじっくりと読ませてみましょう。

考えてみよう！
事例をより深く考えるための問いかけ方を示してあります。

A～Cの小見出しは、考える上でのヒントです。文章部分は、助言や発表・発言時のコメントとしてお使いください。

ワンポイントアドバイス
各トラブルを予防・回避するための指導のポイントです。

◆ 安易な情報提供

14 友人間で回すメッセージによる待ち伏せ被害

友人の間だけで回した内容だったのに ネットで知り合った人に待ち伏せされた

メッセージアプリで、学校の友人からバトンが回ってきました。Qさんは質問を読み、軽い気持ちで名前や年齢、学校名などを答えました。

ネットで知り合った男性に待ち伏せされたQさん。以前その人にメッセージアプリのアカウントを載せていたために、バトンの情報が見られていたのです。

水曜日は、この日に待ち伏せされているはず。

考えてみよう！
「仲間内のやりとりを、知らない人に見られていた」「プライベートな情報を、自分が知らない「友だちの知り合い」が見ていた」としたら、どんなことが起きるでしょう？

A.公開範囲は設定した？ メッセージアプリは仲良ししか読めないから大丈夫だと思いき、設定を確認せず使っている人がいっぱい。友だち追加設定のほか、タイムラインの非公開や公開範囲設定も忘れずに！	B.誰かとつながる怖さ 見知らぬ人とのつながることによる危険はいろいろあります。SNSでつながることで、知らない仲間の情報が、SNSの友だちなら安心」と思われて、危険は広がります。	C.読める人を想像して投稿 基本は、プライベートな情報をネットに載せないこと。どうしても載せたい場合は、誰が読めるかを想像して投稿し、個人情報の投稿には要注意。
---	--	--

解説 バトンの内容、読めるのは本当に親しい友人だけ？
メッセージアプリのタイムライン(日常のつぶやきを投稿できるサービス)などを利用した「バトン」というものがはやっていて、定型の質問に答えながら次の人へと回していく遊びのようなもの。一般的なチェーンメールとは違ってほとんど悪意はないのですが、公開範囲設定をしていなければ、友だち登録しているすべての人が見られるため、トラブルに発展することもあります。身近な友人同士、お互いに個人情報は安易に回さないよう心がければ、トラブルの火種は生じません。さらに、ネットで一重二重回して友だち登録した相手は、タイムラインを非公開の設定しておきましょう。

ワンポイントアドバイス
コミュニケーション系アプリの多くは、読んでもいい人の設定ができます。設定の状態を確認させると共に、個人情報の扱いへの注意喚起を。

上半分のみを配布し、グループワークの題材にすることもできます。

左側の原因を読み、それによって生じたトラブル(右)を予想するやり方も可能です。

参照したい事例がある場合、番号を記載してあります。

各トラブルに関する用語の意味や知っておきたいこと、気をつけたいことなどを簡単に解説してあります。

解説

目次

●はじめに&学校の授業などでご活用いただくために ——— 1

特集1

正しく知っておきたい！① ——— 3
子供たちのインターネット利用の現状

特集2

正しく知っておきたい！② ——— 5
危険なアクセスを防ぐフィルタリング

インターネットトラブル事例 本事例集をご活用いただくために 6

日常に潜む危険

- ① スマホの過度な使用による日常生活への支障 ——— 7
- ② 悪意あるWi-Fiスポットを利用したことによる情報流出 ——— 8
- ③ メッセージアプリ内の会話による悪口や仲間外れ ——— 9

軽率な行動(違法行為)

- ④ なりすまし投稿による誹謗中傷 ——— 10
- ⑤ 個人や学校などへの脅迫行為 ——— 11
- ⑥ アップロードとダウンロード ——— 12
- ⑦ 自分で作成したウイルスをネットに公開 ——— 13
- ⑧ コミュニティサイトなどを使った未成年によるアプローチ ——— 14

取引によるトラブル

- ⑨ フリマサービスやオンラインショッピングでのトラブル ——— 15
- ⑩ ゲームに夢中になっている最中に生じた高額課金 ——— 16

悪意のしかけ 巧みなワナ (セキュリティ)

- ⑪ 自ら「ログインID」と「パスワード」を教えたことによる被害 ——— 17
- ⑫ ワンクリック詐欺やウイルスなどによる不当請求 ——— 18
- ⑬ 不正アプリやウイルスによる個人情報漏えい ——— 19

安易な 情報提供

- ⑭ 友人間で回すメッセージによる待ち伏せ被害 ——— 20
- ⑮ 旅行中の写真投稿や書き込みによる空き巣被害 ——— 21
- ⑯ SNSなどへの投稿内容から個人が特定 ——— 22

信頼から 被害へ

- ⑰ SNSやネットで知り合った人による性犯罪被害 ——— 23
- ⑱ 自画撮り写真の交換に端を発した脅迫被害 ——— 24
- ⑲ 心のよりどころだったSNS上の知人による誘い出し ——— 25
- ⑰ ⑱ ⑲ の危険を回避するために ——— 26

2018年度総務省調査研究「インターネット利用におけるトラブル事例等に関する調査研究」

- 発行者 総務省 総合通信基盤局 消費者行政第一課 青少年担当
〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
- 請負者 株式会社JMC
〒153-0061 東京都目黒区中目黒1-8-8 目黒F2ビル
- 監修 尾花 紀子 ネット教育アナリスト
安心ネットづくり促進協議会「普及啓発広報委員会」副委員長
内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」委員 ほか
西田 光昭 柏市教育委員会 教育専門アドバイザー